

令和3年6月

附設高等学校・中学校
校長 町田 健

令和2年度教育振興基金を財源とした活動の報告について

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため緊急事態宣言下であり、附設においても休校を余儀なくされました。6月より授業が再開されることとなり、教職員一同徹底した感染対策を行い、生徒が安心して学べる環境を整備することに努めました。その際に以下にあげた活動経費につきましては、教育振興基金より支出いたしましたので、ここにご報告いたします。

●臨時かつ火急的な支出

○臨時バス

学校再開に伴い、密を避けるための措置として、登校時間を中学と高校で一時的に分割することといたしました。しかし、中学の登校時間帯は路線バスの本数が少なく、1便あたりに乗車生徒が集中してしまうことが予測されたため、急遽、堀川バスに協力を要請し、6月から7月初旬までの1か月間、JR久留米駅および西鉄久留米駅からの臨時バスを運行させることができました。朝は4便、夕方は3便の計7便を発着させ、生徒の登下校時の利便性と安全性の向上を図りました。



○生徒用LTE（携帯電話の通信システムを利用する仕組み）タブレットの配付

附設ではこれまでもICT教育環境を段階的に導入する計画を立てていました。しかし、コロナ禍において生徒のオンライン家庭学習環境を充実させることが急務となり、生徒個人へのタブレットの配付を決定いたしました。その際、採択されたNTTドコモのセルラーモデルのレンタル料金を、令和2年11月から3月分は保護者負担にはせず、教育振興基金を原資として賄うことで迅速に導入することが可能となりました。令和3年度からは保護者負担に移行する旨の了解を得ております。



○食堂用アクリル板の設置

6月の学校再開と同時に開寮もいたしました。食事の際の飛沫感染防止対策が必須でした。取り急ぎ座席を間引きし、テーブルの中央にビニールを張り、対面で食事する環境を回避しました。また、日中は学食として利用されるため、昼休みの時間は中高で分割させるなどの配慮をしています。感染対策用品も充実させ、入手しやすくなった年末に、アクリル板を購入・設置し飛沫感染対策を行いました。



令和3年度も引き続き環境を充実させ、感染予防に努めていく予定です。